

全力で挑んだ先に見えるものを目指して

大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻
南方研究室 博士後期課程二年

永田 貴也

「早く帰りたい」南方研学生の口癖である。時には先生の目を盗み、示し合わせて飲みに繰り出す。いかにして早く帰るかを考え、効率よく仕事をこなす。しかし、そんな努力も虚しく今日も今日とて実験に明け暮れる。不夜城と化した研究室に、蠢く人影。人は彼らをソルジャーと呼ぶ。そんな勇者たちで構成された南方研究室について紹介させて頂きたい。

南方研究室は、工学研究科の応用化学専攻、物質機能化学コースに属しており、有機合成化学の研究を行っている。有機合成化学は、医薬品や有機エレクトロニクス材料など、私たちの生活に欠かせない有機化合物を創造する上で、必要不可欠な分野だ。ただし、私たちは医薬品となる物質そのものを創製しているわけではなく、入手容易な単純な分子から、価値を付加した分子を合成する手法（環境にやさしい方法も考慮して）の開発という、大学でしかできない基礎的な研究に取り組んでいる。さらに、開発した合成手法を利用した新規機能性材料の合成研究も行っている。合成手法の開発から新規化合物の探索まで、広い視点に立って研究を展開していることは、南方研究室の強みであろう。

研究室の特徴は、とにかく元気が良いこと。飲み会でのやかましさは応用化学専攻一である。現在、南方研究室は総勢21人（先生3人 美人の秘書さん1人 博士後期課程学生2人 博士前期課程学生10人 学部学生5人）で活動している。個性豊かな面々が揃い踏みだ。（研究室ホームページのひとこと紹介は一見の価値あり！興味のある方は是非南方研究室ホームページをご覧頂きたい。）合コンのこと

ばかり考えている学生や、ウイスキーのうんちくを語り出すと止まらなくなる学生、実験室で突然ボレロを踊り出す学生などなど、枚挙にいとまがない。明るい学生ばかりなので、短期で訪れる留学生ともすぐに打ち解けることができる。別れ際に、涙を流しながら抱擁しあったのが記憶に新しい。

普段は、遊んでばかり見えるような面々だが、こと研究に至れば熱い気持ちで臨んでいる。分からないことがあれば、とことんまで突き詰め、勉強会ではお互い納得するまで議論する。皆、少しでも知識を得ようと必死で喰らいつく。そんな研究室を率いる南方先生は何を隠そう、研究室一熱い。学生と一対一で真剣に向き合ってくれる。飲み会では、学生と本音で語り合うこともしばしば。南方先生がよくおっしゃることの一つに”よく考えろ”ということがある。学生一人一人のアイデアをととても大切に先生ならではの言葉だろう。「僕らスタッフの考えることはおもんない。お前らの考えることがおもしろいや。」そんな期待のこもった関西弁に僕たちは突き動かされている。

何事にも全力で挑む。それが、南方研のモットーだ。イベントがあれば全力で楽しむ。研究には夢を持って本気で挑む。「早く帰りたい」言葉とは裏腹な気持ちを秘めて、今日も今日とて実験に明け暮れる。

■ 次のページに、研究室のメンバーと年間の行事および雰囲気の写真のいくつか掲載しています。

★ 研究室構成メンバー (現時点21名)



- | | | |
|-------|-----------|-----------|
| 学部学生： | 井狩優太 (B4) | 奥松大地 (M1) |
| | 貝沼駿平 (B4) | 開原崇仁 (M1) |
| | 清須雄暉 (B4) | 渋谷薫 (M1) |
| | 豊田和也 (B4) | 秦正太郎 (M1) |
| | 中村彰悟 (B4) | 山本拳也 (M1) |

スタッフ

- 教授：南方聖司
 准教授：武田洋平
 助教：清川謙介
 事務補佐員：大曲潤子

学生

- 博士後期課程学生：
 田中詩乃 (D2)
 永田貴也 (D2)

- 博士前期課程学生：
 和泉彩香 (M2)
 伊東亮 (M2)
 岩井田晃次 (M2)
 松野哲也 (M2)
 三輪勇人 (M2)

🍏 研究室のイベント

- 4月 花見、新歓コンパ
- 5月 ハイキング (BBQ)
- 7月 院試壮行会
- 8月 院試お疲れコンパ, ピアガーデン
- 9月 研究室旅行
- 10月 ハイキング (BBQ)
- 12月 忘年会
- 2月 修論発表&お疲れコンパ
- 3月 卒論発表&お疲れコンパ, 追いコン

🍏 研究室の一週間

- 月曜日～金曜日：9:30までには実験スタート！
 月曜日に雑誌会 (担当者1名)
 土曜日の午前は勉強会&掃除
 週1回 院試勉強会 (前期)

